

2023(令和5)年度  
大阪府内地域連携プラットフォーム  
事業報告書  
(2023年4月～2024年3月)

2024(令和6)年3月

## 課題 1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		HP オープンキャンパス情報の常時掲載
5		大阪の大学「学び」WEB フェアの常時掲載
6	第 1 回推進委 (6 日)	共通大学案内ブックレットの作成・配布 (7 万 6 千部)
7	第 1 回部会 (24 日)	大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査の実施 (8 月 25 日まで)
9		高校生応援プロジェクトの開催 (HP にて公開)
10		第 1 回高大連携フォーラム (30 日)
11	第 2 回推進委 (21 日)	
1	第 2 回部会 (22 日)	
2	第 3 回部会 (書面開催: 19~26 日)	第 2 回高大連携フォーラム (29 日)

取組 1 高大連携フォーラム [https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai\\_forum](https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_forum)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高大双方が高大接続の大きな環境変化に関する情報を共有している。</li> <li>・ 高大接続の諸問題を高校と大学が対等な立場で継続的に検討している。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活用割合：会員大学数の 60%以上の参加大学数／各年</li> <li>・ 参加者比率：大学と高校からの参加者数が同程度／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催回数：1 回以上／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 回開催 (第 1 回：10 月 30 日、第 2 回：2024 年 2 月 29 日)</li> </ul>

- ・ 大阪府内の高校、大学における喫緊の課題をテーマに取り上げ、情報共有や効果的な連携方法について模索する場として「高大連携フォーラム」を開催している。
- ・ 今年度は「AI 時代の教育を考える」や、国の掲げる「AI 時代に求められる人材育成に係る取組」の「『数理・データサイエンス・AI』に関する教育プログラム」をテーマに、オンラインにて 2 回開催した。

### ＜第 1 回実績＞

<p>テ ー マ:生成 AI 時代の教育を考える                      開催日時: 2023 年 10 月 30 日 (月) 18:00~19:30                      講 演: 生成 AI の登場はこれからの教育をどう変える? ~英語教育での活用を例に考える~                      講 演 者: 金丸 敏幸氏 (京都大学 国際高等教育院 准教授)                      司会進行: 秋田 成司氏 (大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 推進委員長・大阪公立大学 副学長)</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ＜第 2 回実績＞

<p>テ ー マ:生成 AI 時代の教育を考える                      開催日時: 2024 年 2 月 29 日 (月) 18:00~19:30                      講 演: 高大接続を見据えた高等学校におけるデータサイエンス教育実践                      講 演 者: 林 宏樹氏 (雲雀丘学園中学校・高等学校 教諭)                      コーディネーター: 小山田 耕二氏 (大阪成蹊大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科長)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ＜参加者数＞

内訳	第 1 回	第 2 回
会員大学	14 大学 30 人	9 大学 14 人
会員大学外	12 大学 14 人	4 大学 4 人
高等学校	7 校 7 人	13 校 14 人
その他	8 人	7 人
合 計	59 人	39 人

**取組2 会員大学情報の発信**

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生のニーズが高い情報を厳選して会員大学から収集している。</li> <li>・ 高校生に届きやすい方法で会員大学情報を発信している。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活用割合：会員大学数の80%以上の大学数/各年</li> <li>・ ホームページの該当ページの閲覧数：倍増/計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施回数：1～2回/各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4回実施（共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト）</li> <li>・ 会員大学によるHPの活用割合：100%（40/40校）</li> <li>・ 高校生カテゴリページ閲覧数：6,175回（2023年4月1日～2024年3月31日までの集計）</li> </ul>

【オープンキャンパス情報の発信】 [https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ)  
 会員大学のオープンキャンパス情報を大学コンソーシアム大阪のホームページに一元化し、高校生が大阪の大学のオープンキャンパス情報にアクセスしやすい工夫を行った。

【共通大学案内ブックレットの作成・配布】  
<https://www.consortium-osaka.gr.jp/images/web/osaka/webfair/booklet2023.pdf?1688111722>  
 会員大学の魅力を広く発信するために「共通大学案内ブックレット」を作成し、学生による自大学の魅力の紹介や学生座談会記、また大学コンソーシアム大阪の会員大学の学生から成る「学生ボランティアチーム ACT」が作成した記事を掲載するなど、内容の充実に努めた。  
 ブックレットは、大阪府教育庁等の協力や会員大学の共同による高校訪問時の配布を通じて、これから本格的に進学先を検討する高校2年生を中心に約7万6千部配布した。

【大阪の大学「学び」WEBフェア】 [https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ/webfair](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/webfair)  
 会員大学の魅力発信の取組の一環として、大学コンソーシアム大阪のホームページで会員大学の合同説明会を実施した。

【高校生応援プロジェクト】  
[https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka\\_univ/project](https://www.consortium-osaka.gr.jp/osaka_univ/project)  
 大学コンソーシアム大阪のホームページに、高校生を対象とした模擬授業等をはじめとする会員大学の「学び」に関する動画コンテンツを集約したページを設置しており、今年度は23校からの動画提供を受け、公開している。

【大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査の実施】  
<https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform/plan>  
 高校における大学との連携状況や連携に関するニーズの把握を目的とした標記調査を大阪府内の高等学校を対象に実施した。高校への依頼にあたり、府立高校においては大阪府教育委員会の協力を仰いだ。大学コンソーシアム大阪のホームページで調査結果を公開している。結果内容を踏まえ、今後の高大のさらなる連携強化に向けて検討を進める。

※上記の取組は、私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）の加点に向けた取組とも連動している。

**第1回高大連携フォーラムチラシ**



**共通大学案内ブックレット**



## 課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

月	会議	行事等
4		前期開講（センター2科目）
5	第1回推進委・単互実務委合同会議（26日）	
6		単位互換制度に関する意向調査実施
7	第1回部会（6日）	
8		追加募集科目 出願開始（24日～） 集中科目開講（センター2科目）
9		後期開講（センター11科目）
10	第2回推進委・単互実務委合同会議（20日）	
12	単位互換事業担当者説明会 （8日、※オンライン開催）	
1	第2回部会（17日）	
2	第3回部会（書面開催：15～23日）	
3		2024（令和6）年度 出願開始（18日～）

### 取組1 単位互換事業 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/tg>

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター科目と各大学が担当するオンキャンパス科目の役割やねらいが明確になっている。</li> <li>・各大学の強み、ネットワークを活かして「大阪の特徴・魅力」を総合的に学べる機会を提供している。</li> </ul>
数値目標	・学生送り出し校数：包括協定校の60%以上の大学数／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回実施</li> <li>・学生送り出し校数：包括協定校の69.2%（最大27/39校）</li> </ul>

今年度の全体の出願数はコロナ前の水準まで回復し、順調に推移した。なお、詳細は以下のとおり。

#### 【センター科目】

- ・科目数は、新規提供科目を含め、計15科目（前年度実績：12科目）と増加した。
- ・また、昨年度に引き続き、南大阪地域大学コンソーシアムとの広域単位互換を実施し、双方から1科目ずつ提供している。
- ・出願者数は前年より増加し、688人、前年比123.1%となった。※実出願者数は475人

#### 【オンキャンパス科目】

- ・科目数は計416科目（前年度実績：367科目）と増加した。
- ・出願者数は前年より微減して291人、前年比97.3%となった。

#### 《出願実績》

- ・出願者数は在籍大学承認不可及び辞退者を除いた数を示す。
- ・2023年度は協定校として大阪公立大学、大阪府立大学、大阪市立大学はそれぞれ1校として計上。

		2022	2023	当年-前年	前年比
センター	科目数	12 ※うち、広域1	15 ※うち、広域1	+3	125.0%
	出願校数	18	24	+6	133.3%
	出願者数	559 ※うち南大阪4人	688	+129	123.1%
オン キャンパス	科目数	367	416	+49	113.4%
	出願校数	18	24	+6	133.3%
	出願者数	299	291	-8	97.3%

【会員大学の単位互換制度に関する意向調査の実施】

- ・ 単位互換制度のさらなる充実を目指し、包括協定校の個別ニーズやシーズを把握・共有し、次年度以降の科目提供に係る検討材料として活用することを目的に、単位互換制度に関する意向調査を6月に実施した。
- ・ 「単位互換科目として今後新規提供や開設が望まれる（学生に受講させたい）テーマ」として、大阪地域ならではのテーマを求める大学が約6割を占め、特に大阪・関西万博に関するテーマの科目提供が期待されていることがわかった。
- ・ これらの意見を基に制度の見直しを行いながら次年度事業の更なる拡充を目指したい。



センター科目 授業の様子

単位互換履修生募集ガイド

### 課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

月	会議	行事等
5	第1回インターンシップ推進委・キャリア支援推進委合同会議（17日）	・就業体験型 学生向け説明会（10日） ・就業体験型 学生出願期間（10日～26日）
6		・就業体験型 面接・選考（4日）
7		・就業体験型 事前研修（2日） ・第1回大学等教職員向けセミナー（10日）
8	第1回部会（4日） 第2回インターンシップ推進委・キャリア支援推進委合同会議（29日）	・就業体験型 実習期間（～9月中旬まで）
9		・プロジェクト型（舞洲）実習期間（18日～2024年2月18日） ・第2回大学等教職員向けセミナー（14日）
10		・就業体験型 事後研修・交流会（1日）
11	第3回インターンシップ推進委・キャリア支援推進委合同会議（20日）	・プロジェクト型（舞洲）中間報告会（11日）
12		・第3回大学等教職員向けセミナー（11日）
2	第2回部会（9日）	・就活クエスト 第1回（17日） ・企業・団体向け事業説明会（19日） ・就活クエスト 第2回（26日） ・プロジェクト型（舞洲）企画実践（7日） ・プロジェクト型（舞洲）最終成果発表会（18日）
3	第3回部会（書面開催：4～8日） 大学向け事業説明会（25日）	・就活クエスト 第3回（1日）

#### 取組1 就業体験型インターンシップ

目標	・参加した学生が社会人としての心構えや「働くこと」についての理解を深め、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・留学生、障がい学生、社会人学生など多様な学生と社会をつなぐ機会となっている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の60%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：150人以上／各年 ・受入企業数：100社以上／各年
活動指標	・実施回数：1回／各年
実績	・1回実施

#### 《就業体験型プログラム実績》

	出願者数	マッチング数	実習者数	受入企業数	エントリー数	マッチング数	送出数
大学数	20校	19校	18校	受入企業数	117社	71社	69社
人数	167人	146人	139人				

- ・前年度の実習者数131人（出願者数は162人）に対し、今年度は実習者数139人（出願者数は167人）と微増した。
- ・受入先は117社（推薦枠を含む、前年度は93社）がエントリーし、うち69社に送り出しとコロナ前の水準に回復している。
- ・事前研修は前年度同様オンラインにて実施したが、面接はキャンパスポート大阪、また実習の振り返りを行う事後研修は大阪工業大学 梅田キャンパスを会場に対面で行った。

## 取組2 プロジェクト型インターンシップ

目標	・参加した学生が現場での経験により、より高い意識で大学での知識・能力・技術の習得に励もうと考えている。 ・学生による提案内容が連携先企業をはじめ、社会的に評価・関心を高めている。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：30人以上／各年
活動指標	・プログラム本数：2件以上／各年
実績	・1件実施 舞洲スポーツイノベーションプロジェクト（2023年9月～2024年2月）

### 《舞洲スポーツイノベーションプロジェクト》

日 時	2023年9月18日（月・祝）～2024年2月18日（日）
会 場	武庫川女子大学メディアホール・おおきにアリーナ舞洲他 （別途、オンラインワークショップを定期的に開催）
共 催	舞洲プロジェクト（大阪市、大阪エヴェッサ、オリックス・パファローズ、セレッソ大阪）
メンター	松尾 信之介氏（大阪学院大学 経済学部 准教授）
参加者数	5大学8人

- ・本プログラムは、舞洲エリアのスポーツによる活性化を目指し、舞洲プロジェクトが主催するプロスポーツチームの課題解決策をビジネスプランで提案するコンテスト「舞洲スポーツビジネスコンテスト」に挑戦する内容として実施した。
- ・3年目となる今回は、大阪市を本拠地とするプロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」の事業課題に対し、大学コンソーシアム大阪の学生チームは「集客策」の提案に向けて活動を進めた。
- ・なお、同学生チームの円滑な活動の推進にあたり、今年度はメンターとして大阪学院大学 松尾准教授に協力を仰いだ。



中間報告会の様子



学生募集チラシ

## 取組3 就活クエスト in OSAKA（旧 オンラインプログラム）

目標	・参集型では難しかった遠隔地や特殊な現場など、これまで知る機会がなかった仕事について、学生が具体的なイメージを持つことができている。 ・学生が、プログラムを通じて企業活動の意義とそこで働く人の役割の一端を理解している。
数値目標	・学生送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数／各年 ・参加学生数：60人以上／各年
活動指標	・実施回数：3回以上／各年
実績	・3回実施（第1回：2月17日、第2回：2月26日、第3回：3月1日）

- ・早期から実社会に触れることによる学修の深化や主体的な職業選択、また高い職業意識の涵養を目的として低年次学生を主対象に単日のワークショップ形式にて全3回実施した。
- ・大阪商工会議所及び大阪イノベーションハブ（OIH）との連携のもと、プログラムを通じて学生が大阪の産業構造を知り、府内の中小企業の魅力に触れる機会を提供している。

《就活クエスト in OSAKA》

回・開催日	テーマ・会場・講師等・参加者数
第1回 (2月17日)	テーマ：大阪企業人列伝！ 会場：キャンパスポート大阪 講師：南海電気鉄道株式会社 財務戦略グループ ブランド統括部 大久保 有紗氏 荒川化学工業株式会社 管理本部 人事部 小原 周氏 ファシリテーター：大阪商工会議所 人材開発部 研修・採用支援担当 内村 留衣氏 共催：大阪商工会議所 参加者数：9 大学 12 人
第2回 (2月26日)	テーマ：若手起業家のキャリア見聞録 会場：キャンパスポート大阪 講師：株式会社アクコム 代表取締役 宮田 祈氏 一般社団法人 Re-Generation 理事 山本 颯人氏 ファシリテーター：公益財団法人大阪産業局 スタートアップ支援事業部 コーディネーター 雪田 清子氏 共催：大阪イノベーションハブ(OIH) 参加者数：4 大学 5 人
第3回 (3月1日)	テーマ：企業家ミュージアム探訪 会場：大阪企業家ミュージアム 講師・ファシリテーター：大阪商工会議所 人材開発部 大阪企業家ミュージアム 次長 阿部 真弓氏 共催：大阪商工会議所 参加者数：5 大学 5 人

取組4 キャリア支援事業

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時宜に応じたキャリア支援の課題に会員大学が連携して対応している。(就職に困難性のある学生に対する支援、学生の多様性に対する支援など)</li> <li>・就職支援のための関連団体との連携が拡大し、充実した支援を実施している。</li> </ul>
数値目標	・参加大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年
活動指標	・開催回数：1回以上/各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学等教職員向けセミナー」</li> </ul> 3回開催(第1回：7月10日、第2回：9月14日、第3回：12月11日)

【大学等教職員向けセミナーの開催】

- ・大阪府、南大阪地域大学コンソーシアムとの共催で、発達障がい傾向を有するなど就職困難性が高く、支援を要する学生に対する支援方法について理解を深めることを目的に、「大学等教職員向けセミナー」を開催した。

《大学等教職員向けセミナー実績》

回・開催日	テーマ・会場・講師等・参加者数
第1回 (7月10日)	テーマ：要支援学生の就職について考える 会場：オンライン(ZOOM) 講師：浜内 彩乃氏(京都光華女子大学 健康科学部 講師/大阪・京都 こころの発達研究所 葉 代表) 参加者数：67人(うち会員16 大学26人)
第2回 (9月14日)	テーマ：要支援学生の就職支援 ～『高等教育機関』と『支援機関』の連携について～ 会場：キャンパスポート大阪 講師：日下部 貴史氏(国立大学法人富山大学 学生支援センター) 塚田 吉登氏(社会福祉法人すいせい 理事) 参加者数：40人(うち会員17 大学20人)
第3回 (12月11日)	テーマ：要支援学生の就職支援 ～多様性を活かすには～ 会場：オンライン(ZOOM) 講師：梅永 雄二氏(早稲田大学 教育・総合科学 学術院 教授/教育学 博士) 船越 隆之氏(株式会社リテラル 代表取締役) 参加者数：75人(うち会員12 大学18人)

## 課題4 国際交流の活性化

月	会議	行事
5	第1回推進委（15日）	
6		学生英語プレゼンテーションコンテスト発表者募集開始（16日～）
7	第1回部会（20日）	
8		第1回グローバル人材育成講座（29日）
9		学生英語プレゼンテーションコンテスト運営メンバー募集開始
10	第2回推進委（16日）	まちあるきツアー企画学生募集開始
12		学生英語プレゼンテーションコンテスト（3日）
1	第2回部会（18日）	
2	第3回部会（書面開催：19～26日）	
3		第2回グローバル人材育成講座（4、5日） 国際交流イベント「大阪のまちあるきツアー」（15日）

### 取組1 他国・他地域との交流事業

目標	・明確な目的をもって、国際交流事業を実施している。 ・さまざまな交流プログラムを検討・実施している。
数値目標	・交流事業数：延べ5事業／計画期間
活動指標	・交流事業開催回数：1回以上／各年（再開以降）
実績	・台湾財団法人高等教育国際合作基金会より交流の意思表示がないため、進捗なし。

### 取組2 グローバル人材育成講座 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/global>

目標	・日本の現状と課題を認識し、グローバルな社会課題の解決策を考えるきっかけとなっている。 ・多文化共生・異文化理解、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）という価値観を育む機会となっている。
数値目標	・講座受講者数：延べ300人以上／計画期間内
活動指標	・講座開催回数：2回以上／各年 ・国際交流イベント開催回数：1回以上／各年
実績	・講座：2回開催（第1回：8月29日、第2回：3月4、5日） ・国際交流イベント：1回開催（2024年3月15日、大阪のまちあるきツアー）

#### 【講座】

##### ＜第1回開催概要＞

テーマ：大阪から目指せ、グローバルキャリア！  
～国際協力業界で活躍するアクターからリアルを学ぼう～  
日時：2023年8月29日（火）10:00～16:00  
講師：鍛冶澤 千重子氏（独立行政法人国際協力機構 開発大学院連携課 課長）  
河野 敬子氏（一般社団法人 海外コンサルタント協会）  
栗田 佳典氏（特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 事務局長・理事）  
大森 功一氏（世界銀行 東京事務所 上級対外関係担当官）  
受講者数：15大学27人 ※うち留学生2人

##### ＜第2回開催概要＞

テーマ：ビルディング・ブリッジ～大阪・関西万博に向けてレゴ®シリアスプレイ®で文化を繋ぐ  
日時：2024年3月4日、5日 計2日間  
講師：Mark SHEEHAN氏（阪南大学 国際コミュニケーション学部 教授）  
受講者数：10大学14人 ※うち留学生2人

《国際交流イベント》

・身近なまち「大阪」のまちあるきを通じて、国内学生・留学生それぞれの大阪観や日本観を共有することにより、異文化交流に対する理解を促し、新たな気付きや価値観の獲得に寄与するため、「大阪のまちあるきツアー」を実施した。ツアー企画・運営は有志学生が行い、現在 10 名が 2024 年 3 月実施に向けて活動に取り組んだ。

なお、今年度は学生企画のアドバイザーとして大阪観光大学 観光学部 太田 均准教授に協力を仰いだ。



企画学生募集チラシ

＜企画学生＞

	申込者	選出数
大学数	12	8
人数	25	10

＜ツアー参加状況＞※ツアー定員はあわせて 30 人で設定

	国内学生		留学生	
	申込者数	参加者数	申込者数	参加者数
大学数	11	7	14	6
人数	37	9	24	12

取組 3 学生英語プレゼンテーションコンテスト

[https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en\\_presentation](https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/en_presentation)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が発表に至るまでにグループワークを重ね、プレゼンテーションスキルを学ぶ機会となっている。</li> <li>・国際共通語としての「英語」を用いて、国際的な共通課題の解決策を斬新な発想で考え、意見交換する機会となっている。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出場チーム数：15 チーム以上／各年</li> <li>・参加者数：英語圏以外の留学生の参加増／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：1 回／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 回開催（12 月 3 日実施）</li> </ul>

《開催概要》

開催日時	2023年12月3日（日）10:00～17:00
会場	グランフロント大阪 北館タワーC8階 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02
発表テーマ	「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げた 2025 年大阪・関西万博の開催まで 2 年を切りました。本コンテストでは、大阪の学生が、未来社会をデザインする主役として、SDGs 達成に繋がる具体的な提案を発表してください。

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与することを目的に開催している。
- ・観覧機会を広く提供するため、当日の様子を YouTube によるライブ配信を行い、オンライン視聴を可能にした。
- ・「万博」をテーマに取り上げることから、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会より審査員派遣の協力を得た。
- ・応募チームが多数であったため、推進委員による予備選考を行い、出場 11 チームを選出した。

応募チーム数	応募大学数	発表チーム数	発表大学数	発表学生数
24	10	11	9	26 (5)

<運営メンバー>

	応募者	選出数
大学数	10	8
人数	24 (1)	11

※ ( ) はうち留学生数

※運営メンバーのうち、2名は大学の授業の一環として参加

課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

月	会議	行事等
5		地域連携学生フォーラム 学生運営メンバー活動開始 (29日)
6	第1回推進委員会 (14日)	地域連携学生フォーラム 発表者募集開始 (26日)
7		
8	第1回部会 (3日)	地域連携学生フォーラム 発表者募集締切 (25日)
9		地域連携学生フォーラム 観覧者募集開始 (8日)
10		地域連携学生フォーラム (22日)
12	第2回推進委員会 (12日)	
1	第2回部会 (31日)	地域連携交流サロン (29日)
2	第3回部会(書面開催:21~28日)	

取組1 地域連携 学生フォーラム in Osaka [https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei\\_forum](https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/gakusei_forum)

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に起こっている。</li> <li>・学生の提案事項や連携のノウハウが蓄積され、それらを会員大学や自治体が共有している。</li> <li>・大阪・関西万博に向けて、学生がつながり、関わる場となっている。</li> </ul>
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内</li> <li>・参加する行政・事業所数：15団体以上／計画期間内</li> </ul>
活動指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催回数：1回／各年</li> </ul>
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回開催 (10月22日)</li> </ul>

【地域連携 学生フォーラム in Osaka】

- ・会員大学の学生自らが取り組む地域活動（ゼミ活動やボランティア等）について発表し、交流を深めることを目的としたフォーラムを毎年開催している。
- ・今年度は13大学9事業の発表があり、計89名が参加した。
- ・現地会場のほか、当日の様子をYouTubeでライブ配信した。
- ・有志の学生運営メンバーが本番までの約5か月間の期間で活動し、テーマや交流企画の検討、広報活動を行った。当日は司会等のフォーラム全体の運営や、万博をテーマとしたワークショップなど、参加者間の交流企画を行った。

<開催概要>

開催日時：2023年10月22日（日）10:00～16:30
会場：グランフロント大阪 北館タワーC8階 ナレッジキャピタルカンファレンスルームタワーC RoomC01+C02
テーマ：大阪の3つの輪・和・話 ～学生パワーで明るく笑顔つながる大阪に～

<発表事業数>

大学数	事業数
13	9

<学生運営メンバー>

大学数	人数
7	11

<参加者（現地会場）>

大学数	行政・事業所数
14	1

取組 2 地域連携交流サロン [https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info\\_meeting](https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/info_meeting)

目標	・大学と行政・事業者等のコラボレーションが自発的に生まれている。
数値目標	・参加大学数：会員大学数の50%以上の参加大学数／計画期間内 ・参加する行政・事業所数：10団体以上／計画期間内
活動指標	・開催回数：1回以上／各年
実績	・1回開催（1月29日）

- ・本サロンは、地域連携をテーマに情報収集やネットワーク構築の場として昨年度より開催している。今年度は、「学生ボランティアが活躍する大阪・関西万博」をテーマに、万博協会と大学関係者での意見交換会を1月29日に開催した。
- ・参加者は、大学から10大学13名（うち会員外1大学1名）のほか、万博協会、万博のボランティアに係る運営事業者であるJTBコミュニケーションデザインの関係者がオブザーバーで参加し、万博を舞台とした実りある学生のボランティア活動について意見交換を行った。

取組 3 学生ボランティア事業

※本資料14ページ目「課題7 大阪の様々な課題に対応した取組の拡充」の取組1に記載。

## 課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

月	会議	行事
4		インストラクショナルデザイン (ID) 研修 オンデマンド 通年公開
5	第1回推進委 (15日)	
7		初任者 SD 研修 (第1回) (31日)
8	第1回部会 (2日) 第2回推進委 (29日)	
10		初任者 SD 研修 (第2回) (31日)
11		サロン (第1回) (22日)
12		初任者 SD 研修 (第3回) (5日) サロン (第2回) (19日)
2	第2回部会 (6日) 第3回部会 (書面開催: 28~3月6日)	サロン (第3回) (15日) 管理職者 SD 研修 * 研究事業の一環 (27日)

### 取組1 各種研修

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員大学のニーズに応じた研修を実施している。</li> <li>・研修講師を担える人材の育成が図られている。</li> </ul>
数値目標	・教職員送り出し大学数：会員大学数の25%以上の参加大学数/各年
活動指標	・実施回数：2回以上/各年
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者 SD 研修：3回実施</li> <li>・インストラクショナルデザイン (ID) 研修：オンデマンドにて提供中</li> <li>・管理職者 SD 研修 (研究事業の一環として実施)：1回実施</li> </ul>

【初任者 SD 研修】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd>

- ・大学職員としての業務遂行能力を高めるための必要なスキルを考えるとともに、様々な大学の職員との交流を通じて情報交換やネットワーク構築の機会提供を目的に、講義とグループワークから成る研修を対面形式にて全3回実施した。

### 《実績》

回・開催日	テーマ	講師 (近藤氏以外は推進委員)	受講者数
第1回 (7月31日)	大学職員が知っておくべき キホンを学び、業務上の 課題を共有する	佐藤 浩輔氏 (大阪体育大学 庶務部 学長室担当) 滝口 雄貴氏 (大阪医科薬科大学 人事部 人事管理課 主任)	19 大学 42 人 (うち会員外1 大学 2 人)
第2回 (10月31日)	自分の大学を知ろう！	佐藤 浩輔氏 (大阪体育大学 庶務部 学長室担当)	14 大学 27 人
第3回 (12月5日)	大学職員として何ができて いて、何ができていないの かを考えてみる	近藤 智彦氏 (愛知大学 理事長付参事) 宮原 秀明氏 (大阪学院大学 大学事務長) 葛西 崇文氏 (大阪女学院大学 教務・学生課 課長)	7 大学 12 人

【インストラクショナルデザイン (ID) 研修】

- ・大学職員を対象に、教え方のセオリーを学びながら、そのノウハウを自大学の SD 研修の企画や業務で活かしてもらうことを目的に、2022年11月2日よりオンデマンド形式にて常時公開している。
- ・研修部会推進委員長の宮原 秀明氏 (大阪学院大学 大学事務長) が講師を務め、人事担当者のほか、教えることを企画し実施する業務担当者も活用可能な内容としている。

※ID 研修ページ (下記ページ) へのアクセス数 233 件 ※2024 年 1 月現在

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/id> (研修概要)

<https://donow2016.com/id/2022/> (研修詳細)

【管理職者 SD 研修（新）】

2022 年度及び 2023 年度に大学コンソーシアム大阪の「中期計画推進に係る提案型研究事業」に選定された大阪女学院大学、大阪学院大学、大阪電気通信大学の 3 大学連携による研究事業の一環として、管理職者を対象とした SD 研修を 2 月 27 日に開催し、8 大学 11 名が参加した。  
 同事業では、管理職者として必要なスキルや資質について会員大学の事務局長クラスを対象とした個別ヒアリングを実施しながら、それを踏まえた研修の在り方や実施に向けた研究が進められている。

取組 2 サロン・ド・大学コンソーシアム大阪（SD 勉強会）

<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/salon>

目標	・参加者が主体的に情報交換や交流を行っている。
数値目標	・会員大学の参加率：会員大学数の 60%以上の参加大学数／各年
活動指標	・開催回数：3 回以上／各年
実績	・3 回実施（第 1 回：11 月 22 日、第 2 回：12 月 19 日、第 3 回：2 月 15 日）

・「生成 AI」及び「教務の実践知の蓄積を促すケースメソッド」をテーマに、下記のとおり開催した。（第 1・3 回：対面、第 2 回：対面とオンラインのハイブリッド）

《実績及びスケジュール》

回・開催日	テーマ・講師	参加者数
第 1 回 (11 月 22 日)	生成 AI ハンズオンセミナー 那須野 峻平氏 (大阪電気通信大学 工学部 電気電子工学科)	10 大学 15 人
第 2 回 (12 月 19 日)	生成 AI の仕組みと限界 ーガイドライン制定のその先を考えるー 前田 利之氏 (阪南大学 副学長、AI・データサイエンス教育研究所長)	10 大学 14 人 (うち会員外 3 大学 3 人)
第 3 回 (2 月 15 日)	現場で職員育成するために ー教務の実践知の蓄積を促すケースメソッドの可能性ー 竹中 喜一氏 (近畿大学 IR・教育支援センター 准教授)	10 大学 17 人 (うち会員外 1 大学 1 人)



サロン 各種チラシ



初任者 SD 研修（第 3 回）の様子

## 課題7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

月	会議	行事
4	第1回分科会1 (28日)	
5	第2回分科会1 (26日)	リカレント教育推進に係る意見交換会 (第1回) (20日) 提案型研究事業選定 (30日)
6	第1回協議会 (22日) 第3回分科会1 (30日)	公開講座 第1回 (19日)
7	第4回分科会1 (28日)	
8	第5回分科会1 (25日)	MOS 資格取得講座開講 (~9月末) FD 研修 (24日) 公開講座 第2回 (25日) リカレントプログラムポータルサイト開設 (29日)
9	第6回分科会1 (15日)	公開講座 第3回 (7日)、第4回 (20日)、第5回 (27日)、 追加開催 (12日)
10	第7回分科会1 (13日)	タイプ3申請 (31日までに)
11	第2回協議会 (30日) 第8回分科会1 (24日)	
12	第9回分科会1 (22日)	
1	第10回分科会1 (26日)	
2	第11回分科会1 (22日)	リカレント教育推進に係る意見交換会 (第2回) (19日)
3	第3回協議会 (6日) 第12回分科会1 (22日)	

取組1 学生ボランティアの拡充 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/student/volunteer>

目標	・事業の企画運営に学生が主体的に関わる機会が創出されている。
数値目標	・学生の参加数：各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人/計画期間内
活動指標	・既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画：2事業以上/各年
実績	・6事業 (地域連携学生フォーラム、学生英語プレゼンコンテスト、国際交流イベント(大阪のまちあるきツアー)、ACT2事業(活動紹介&交流会、学生座談会)、G7大阪・堺貿易大臣会合学生通訳ボランティア)

- ・地域連携や国際交流のイベント運営に係る有志学生の参画のほか、2021年度より学生交流イベントを主体的に企画・運営する「学生ボランティアチームACT」が発足したが、今年度からACTの活動支援を地域連携部会事業の一つとして位置付け、推進委員による助言のもと、様々な大学の学生が集いながら自由な発想によるイベントを行っている。現在8大学14名の学生が活動中である。
- ・今年度は、6月に大阪府内地域連携プラットフォーム事業の一環として、高校生に向けた共通大学案内ブックレット「大阪の大学へ行こう！」の記事作成、9月には全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム(於：静岡)の分科会にて学生ボランティア活動に係る事例発表を行うなど、活動の幅を徐々に広げている。
- ・また、独自の活動として、7月にACTの新規メンバーの募集を兼ねた活動紹介と座談会形式の交流会、10月には「大学生活」を主なテーマとした学生座談会を企画・開催した。
- ・2023年10月28日・29日に開催されたG7大阪・堺貿易大臣会合に、会員大学より11大学22名の学生が通訳ボランティア参加し、接遇などの事前研修を経て、会場内の展示ブースや歓迎レセプションで活動を行った。

取組2 連携調査・研究の実施

目標	・大学間、また産官学の連携による調査や研究が恒常的に実施されている。
数値目標	・連携調査・研究実施数 延べ15件/計画期間内
活動指標	・連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上/各年
実績	・調査：4テーマ 新入生対象薬物意識調査、大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査、単位互換制度に関する意向調査、リカレント教育に関する社会人のニーズ調査 ・研究：2テーマ 中期計画推進に係る提案型研究事業(2件採択)

- ・新入生対象薬物意識調査は、今回3回目の実施となり、調査結果を薬物乱用防止の啓発に繋げるために、調査内容に性別を回答する項目を設けるなど、より詳細な実態の把握に努めた。今後、産官学連携による薬物乱用防止に係る啓発活動を継続して進めるほか、自県進学率の高い大阪において高校との連携の必要性も挙げられており、調査結果の共有等行う予定としている。
- ・大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査及び単位互換科目提供に関する意向調査を実施し、それぞれの部会事業にて活用する。
- ・今年度の「大学コンソーシアム大阪 中期計画推進に係る提案型研究事業」には4事業の応募があり、以下の2事業が採択された。

<採択事業> ※★は研究代表大学

- ・管理職者が持つ研修ニーズ—大学設置形態からの比較—  
(大阪女学院大学★、大阪学院大学、大阪電気通信大学)
- ・司書課程における選択科目の開放による学生の知識と意欲の向上  
(相愛大学★、大阪学院大学、梅花女子大学、桃山学院大学)

取組3 地域課題に対応した取り組みの推進

目標	・産官学連携による課題解決体制が整備されている。
数値目標	・実施事業数 延べ5事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 1事業以上／各年
実績	・5事業実施 (大阪府内地域連携プラットフォーム主催FD研修、公開講座、リカレントプログラム、リカレント意見交換会、リカレントプログラムポータルサイト開設)

【大阪府内地域連携プラットフォームの取組】 <https://www.consortium-osaka.gr.jp/platform>

- ・今年度は、以下の取組を推進した。詳細は以下のとおり。

<FD研修>

開催日時	2023年8月24日(木) 14:00~15:30
会場	阪南大学 あべのハルカスキャンパス
テーマ	AIがもたらす大学教育への影響とは—ChatGPTの事例から考える—
講師	前田 利之氏(阪南大学 副学長、AI・データサイエンス教育研究所長)

- ・今年度は大阪府内地域連携プラットフォーム主催のFD研修を初開催し、MDASH認定校である阪南大学の前田副学長、AI・データサイエンス教育研究所長を迎え、大学共通の課題である生成AIをテーマにその特徴や活用方法等について学びを深めた。

<公開講座>

- ・大阪・関西での課題や関心の高いテーマに基づき、大学連携による公開講座を全6回にわたり開催した。

回	開催日程	テーマ	講師
1	6月19日(月) 16:30~18:00	迫りくる大災害から命を守る —南海トラフ巨大地震への備えと実践—	奥村 与志弘氏 (関西大学 社会安全学部 教授) <情報提供>大阪市危機管理室
2	8月25日(金) 13:30~14:30	国際平和と安全 —軍縮・不拡散の視点から—	樋川 和子氏 (大阪女学院大学 国際・英語学部 教授)
3	9月7日(木) 16:00~17:00	咲洲から大阪・関西万博へ —産官学連携によるプレ万博の取組—	前川 佳敬氏 (森ノ宮医療大学 副学長/ 地域連携センター長)
4	9月20日(水) 16:00~17:00	アフターコロナ時代の 高齢者のフレイル予防—大学の取組紹介—	井尻 吉信氏 (大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 教授)
5	9月27日(水) 16:00~17:00	「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と 包摂性のある社会の実現とは —ジェンダーギャップの解消の視点から—	三成 美保氏 (追手門学院大学 法学部 教授)
追加分	9月12日(火) 15:00~16:00	進化するスポーツ産業と スポーツビジネスの拡大	原田 宗彦氏 (大阪体育大学 学長)

<大阪府域のリカレント教育推進に係る各種取組>

■リカレントプログラムの実施

- ・近年の社会環境の大きな変化やDX化の急速な移行に対応するため、現役社会人を対象にITに関する知識やスキルの上を目指すオンデマンド講座を3年にわたり開催している。
- ・今年度はマイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) 資格の取得を目指す3講座を開講した。

開催期間：2023年8月1日～9月30日
講座名：MOS 資格取得講座（オンデマンド形式による3講座：Word/Excel/PowerPoint）
対象：現職の社会人
受講者数：4人

■大阪府域におけるリカレント教育推進に関する意見交換会の開催

- ・大阪府域のリカレント教育推進にあたり、大阪商工会議所、会員大学による取組事例の共有や意見交換・情報交換を目的とした意見交換会を2023年5月、2024年2月の2回にわたり開催し、計11大学が参加した。

■会員大学リカレントプログラム ポータルサイトの開設

- ・2023年8月に大阪商工会議所との連携による、会員大学で実施するリカレントプログラムを一元化したポータルサイトを大学コンソーシアム大阪のホームページに新設した。今後定期更新を行いながら情報の拡充に努めるとともに、大阪商工会議所の会員企業等へ広く周知を行う予定である。

<大阪府内地域連携プラットフォーム 活動報告会（予定）>

- ・大学コンソーシアム大阪及び大阪府・市・大阪商工会議所との連携による取組を広く発信しながら、参加者による意見交換を目的とした活動報告会を2024年5～6月に開催予定とし、現在準備を進めている。
- ・今回は、「大阪・関西の再生と成長に向けたプラットフォームの役割とは」をテーマに、大学コンソーシアム大阪 企画・運営委員会 副委員長の安孫子 勇一氏（近畿大学 経済学部 教授）による講演のほか、それを踏まえた参加者による意見交換を行う予定としている。

<分科会1の設置と私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）の申請>

- ・2023年5月に開催した大学コンソーシアム大阪 第17回通常総会において、今年度も私立大学等改革総合支援事業（タイプ3・プラットフォーム型）に申請することが全会一致で承認された。これを受けて大阪府内地域連携プラットフォーム協議会のもとに本事業の申請に関する検討等を行う「分科会1」を設置し、選定・点数加算に向けた取組を進めた結果、6年連続選定の快挙を遂げることができた。（取組内容は前項目のとおり。）

取組4 大阪・関西万博との連携

目標	・万博への積極的な参画を通じて大阪・関西の活性化に寄与している。
数値目標	・実施事業数 延べ10事業／計画期間内
活動指標	・実施事業数 2事業以上／各年
実績	4事業実施 ・学生英語プレゼンテーションコンテスト（万博をテーマに）：2023年12月3日開催 ・グローバル人材育成講座（第1回・第2回） ・地域連携交流サロン：2024年1月29日開催 ※その他、大学コンソーシアム大阪・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会間で連携推進に関する協定を締結

- ・大阪・関西万博開催が間近に迫る中、2023年8月に、大学コンソーシアム大阪・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会間で大阪・関西万博に向けた取組等の連携推進に関する協定を締結した。本協定の締結を機に、会員大学が連携しながら、若者（大学生）や大学の万博に対する機運醸成に向けた各種連携取組を実施した。

## 課題8 その他の活動

### 【日本インターンシップ学会との連携取組】

- ・2023年8月に日本インターンシップ学会第24回大会が追手門学院大学を会場に開催された。1日目のシンポジウムは「インターンシップのこれから—それぞれの立場からの想いを込めて」をテーマに開催され、大学コンソーシアム大阪事務局がシンポジストとして登壇した。当日はキャリア支援に関する取組の事例発表のほか、三省合意改正を受けた今後のインターンシップの在り方等について実りある議論が展開された。
- ・2023年12月には、同学会関西支部と大学コンソーシアム大阪の共催による研究会を開催した。今回は「インターンシップにおけるさまざまな連携の記録」をテーマに、南大阪地域大学コンソーシアムからインターンシップの枠組みを活用した人材育成プログラムの活動実践報告、また京都精華大学から芸術・デザイン系大学におけるインターンシップが果たす役割についての事例発表があり、参加者による活発な意見交換が行われた。